

『ミケのテーマ』

池田 真也

#1 ジャズクラブ「東京物語」

啓のピアノをバックに歌うミケ。ナンバーはマイ・ファニー・ヴァレン
タイン。

#2 同

今夜もライブはおわった。誰もいない店。ピアノにもたれかかるミ
ケといたずらに旋律を奏でる啓。

啓 「今日はよかったぜ」

ミケ 「そう?」

啓 「いつもと違ってた」

ミケ 「…つきあってる人が来てたんだ」

啓 「妻子もちの歯医者か」

ミケ 「あいつとはとつくに終わってるわ」

啓 「随分回転が早いんだな。…どんなやつ」

ミケ「もつとださいの。ロベたで…ちよっとおながが出てて…ねえ、
あれやってよ」

啓 「ANGEL EYES」を弾く。

うつとりするミケ。それは彼女のお気に入りナンバー

ミケ「この曲大好き。…せつなくなるな」

啓 「役者志望の髭か」

ミケ「違う。華奢なカメラマンよ」

啓「いや、髭さ」

ミケ「どっちでもいいわ。そんなこと……（フフフと笑う）優しい人なんだ」

啓「また泣くぜ」

ミケ「今度はうまくいくわ」

啓「そう？」

ミケ「……きつとうまくいく。そんな気がするの」

啓「だといいけどね」

ミケ「あんたはどうなのよ」

啓「めんどろなのは好きじゃない」

ミケ「EASY COME EASY GO（っ）？」

啓「まあね」

ミケ「きたないよね男って……。大嫌い……。明日……。時計を見る）今日なんの日か知ってる？」

啓「水曜日」

ミケ「そうよね」

啓「違うの？」

ミケ「大正解……。帰らない？」

啓「もう少し演ってくよ。いい曲ができそうなんだ」

ミケ「(頷いて)じゃああたし帰る」

啓「明日……じゃなくて今日は来ないんだろ」ミケ「来ないわ」

啓「会うの？」

ミケ「会うの」

啓「楽しんできなよ。優しいデブと」

ミケ「いわれなくてもそうするわ」

立ち去るミケ

ミケ「あたしね、昔は女優になるって言われてたんだ『ミケは綺麗だからきつと映画スターになれるよ』って……でも歌手になりたかった」

啓「いつの話だよ」

ミケ「いつだっていいでしょ」

ドアをあけるミケ

啓「ミケ」

ミケ「なに？」

啓「黒で決めなよ」

ミケ「え？」

啓「横浜の『酔いどれ』でやったときのやつ。あれを着ていくといい」

ミケ「よけいなお世話よ」

ほほ笑んで出て行くミケ

#2 まちあわせ場所

黒い服を着ているミケ。みちゆく人々をみている。

いくら待ってもあの人は来ない。

#3 「東京物語」

今夜のライブにミケはいない。

ピアノだけのステージ。

啓「いつもはうまく弾けないくせに、こんな夜に限ってピアノはやけに素直になる。

馬鹿だなんて……やめときゃいいのにつて、いつも思うんだけどね。

じゃあ次はきのう……じゃなくて今日作ったばかりの曲を」

#4 ミケのアパート

結局あいつは来なかった。

ミケ「まっいいか」

疲れた足をひきずって、淋しそうに帰ってくるミケ。

玄関に『ミケのテーマ』と書かれたカセットテープと一りんのバラがおいてあるのを見つける。手にとって中に入るミケ。

#5 ミケの部屋。

『ミケのテーマ』を聴いているミケ。

ミケ「…ばか…」

カセットの裏には「HAPPY BIRTHDAY」と書かれている。

#6 「東京物語」

『ミケのテーマ』を弾いている啓。